

「感染しない」「感染させない」を合言葉に コロナに負けないぞ！

有田史談会 月例通信
事務局 中村貞光
090-4740-4752

坂井会長からのメッセージ♪

■ 寒い日が続いておりますがお元気にお過ごしでしょうか？ コロナワクチンの3回目の接種はお済でしょうか。新聞によれば「第6波死者最悪ペース、高齢者の割合急増！」とあります。一日も早い終息を祈るばかりです。

地元では明るいニュースもあります。「がんばれ！センバツ初出場！ 有田工業高校野球部 祝第94回センバツ出場おめでとう」の垂れ幕が有田の至る所にあります。



先の夏の甲子園大会では、開会式直後の第一試合に出場して勝利を収め、有工の校歌が会場いっぱいに流れました。有田から応援に参加された方から、「有工の校歌を有工生とともに感激しながら歌いました」と興奮気味に話されたことを思い出しました。選手の練習を見に行き、ネット越しですが丁度バッティングの練習中で、私の前に飛んできた飛球をキャッチした選手から「こんにちは！」と元気な挨拶がありました。「ガンバレヨ！キタイシテイルゾ！」と声を掛けると、「頑張ります！」と元気な返事が返ってきました。再び甲子園で有工の校歌が流れるよう、期待に応えてくれるものと感じました。

高田保馬 作詩
山本寿作 作曲

朝風清き泉山
瀬の音高き白川や
地は西海の混なれど
我等が誇り思い見よ

史に見えたる名は永く
海に彼方に輝ける
誉れ普く陶業の
道は我等の身を伝ふ

伝統のすじ高けれど
なおも積みゆく創造の
苦しみ日々尽きざれば
工みは永きわれらなり

あゝ楠右エ門何人ぞ
この日本の工芸の
槽を双手に集むべき
我等が望み誰か知る

坂井勝也

事務局の独り言(▽▽)

■ ネットを覗いていたら面白いブログがあったので一部を抜粋して紹介したい。

江戸時代の末期に仙厓（1750～1837）という臨済宗の禅僧がいて、禅画に優れ、東京の出光美術館は彼の作品を多く所蔵するらしい。仙厓は「老人六歌仙」という老人の心境を読んだ画賛を残した。



上記の「老人六歌仙」を現代語に訳すと

「顔に皺より、肌にはほくろができる、腰曲る
頭は禿げて、髭白くなる。
手はふるえ、足はよろつき、歯は抜ける
耳遠くなり、目がかすむ。
なくてならぬは、頭巾、襟巻、杖、眼鏡、
それに、湯たんぼ、温石、尿瓶、そして、孫の手。

おせっかいやきで、死ぬのが怖くて、淋しがりやで
疑い深くて、欲深くなる。
くどくて、気が短くて、愚痴っぽく、
でしゃばりで、いらぬ世話をやきたがる。
相も変わらず、子供自慢の同じ話を繰り返す。
健康自慢に人はほとほとうんざり。」

老人の定義は難しいが、仙厓の読んだ「老人六歌仙」の内容の一つでも心当たりがある人は「自分は老人に属する」と認めた方がいいだろう。歳をとると話はくどく、繰り返しが多く、とにかく長くなる。残りの人生が短くなるのに比例して、話は長くなるのだろうか。